

## 令和3年度 学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	40	学校名	県立鹿島高等学校			課程	全日制・普通科			学校長名	小沼浩幸							
教頭名	江原忠宏						事務室長名	根本和芳										
教職員数	教諭	41	講師(本)	1	養護教諭	1	実習教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	1	事務職員	4	技術職員等	3	計	58
生徒数 742	小学科	1年		2年		3年		合計		合計 クラス数								
		男	女	男	女	男	女	男	女									
	普通科	117	124	124	101	137	139	378	364		19							

## 2 目指す学校像

- ◇ 道義と秩序を重んじ、自己に責任を持つ自主・自律生活の実践を図る学校
- ◇ 学問尊重と真理を求める気風の育成を図る学校
- ◇ 自他の敬愛と協力による豊かで快活な生活態度の樹立を図る学校

## 3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	<p>自らの意志で主体的に学ぼうとする生徒がいる反面、基礎学力の定着や学習意欲が不十分な生徒もいて、学力や学習意欲に差が見られる。</p> <p>部活動との両立を支援し、多様化する学習環境への対応が望まれる。</p>	<p>基礎学力の定着や主体的な学習態度の育成に向け、ICT機器を活用しながら、アクティブ・ラーニングの視点から「わかる授業」を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の推進し、「総合的な探究の時間」の充実に努める。</p>
進路指導	<p>近年、国公立大学合格者数は伸び悩んでいる。また、早期に進路決定したいという焦りからか、安易な進路選択に陥るケースも少なくない。学力を効果的に伸ばし、生徒の希望の多い国公立大学の合格者を増やしたい。学年や教科間で連携し、効果的な方法を共有・研究するなど、学校全体で取り組むことが急務である。就職については、コロナ禍で高校求人倍率が多少の落ち込みが見られたが、最終内定率は100%であった。</p>	<p>進路実現に向け、キャリア教育の充実に努め、組織的・計画的及び継続的な進路指導を通して、生徒の進路実現を推進する。</p> <p>学科改編の完了により、これまで以上に大学進学支援の充実に努める。</p>

生徒指導	<p>生徒は、おおむね規範意識及び基本的生活習慣が確立されている。特別な理由のある生徒以外に、怠学的な欠席・遅刻・早退をする生徒は殆どいない。容姿面における指導では、頭髪の色や型において指導される生徒は若干名であり、女子制服のスカート丈については規定に反している生徒はほぼいない。女子ソックスについても規程違反の生徒数も減少傾向にある。</p> <p>交通面において、登下校時の自転車の運転マナーの悪さが外部から指摘されることが若干あるが、おおむね改善されている。しかし、自転車乗車中の車との接触事故が思いの外発生していることから、交通事故への危機意識の低さが伺える。</p>	<p>職員の共通理解・行動により学年の枠を超えて指導体制を構築することで、生徒の規範意識の確立を図る。また、個に応じて適切な連携指導体勢を構築する。</p> <p>自転車乗車マナーの徹底と危機意識の向上により、車との接触事故防止に努める。また、加害者になり得ることを想定し、損害賠償保険加入を推奨する必要がある。</p>
特別活動	<p>学校行事においては、生徒会が主体的に企画・運営していることから、生徒が自ら積極的に参加し盛況に実施されている。ホームルーム活動については、時間的な制約もあり、計画通りの運営に困難を来すことがある。行事・ホームルームの際に活動記録、自己の振り返りとしてキャリアパスポートを作成し、記入している。部活動も盛んであり、今後更なる活性化が望まれる。ボランティア活動では多くの生徒が積極的に参加しており、地域から高い評価を得ている。今年度は感染症予防対策に配慮しながら、本校生の活動が地域社会に浸透し貢献できるよう、更なる働きかけと活動に拍車をかけていきたい。</p>	<p>ホームルームの時間の確保及び生徒による主体的な企画・運営と、キャリアパスポートを活用した内容の充実を図る。体育祭等の学校行事を生徒主体で企画・運営できるよう支援する。部活動の活性化への取組に併せ、ボランティア活動への意欲を高める指導工夫も必要である。また、各行事において、感染症対策の徹底や、中・高が連携をとり、新しい形を構築する。</p>
渉外	<p>学校の教育活動を含む全般に対する保護者からの関心が高く、PTA活動は活発である。だがPTA総会における参加率がまだまだ低い。総会参加率をさらにあげる工夫をする。同窓会活動では創立110周年終え、同窓会役員の改選を行い、さらに充実した同窓会活動をしていく。学校、保護者、同窓会が互いに協力して、よりよい学校運営ができるように努力したい。</p>	<p>生徒の学校における生活状況等の情報を保護者に提供し、共通理解を図るとともに、学校と保護者が連携しやすい体制を作る。</p>
学習研究・図書視聴覚	<p>これまでの各学年における進路学習指導は、主に総括役の進学クラスの担任が一人で担当していた。学科改編に伴い、彼らが行っていた仕事を校務分掌や学年のメンバーに分散化・明確化することでより一層の効果を上げることが求められる。特に今まで学年主導で行っていた小論文・探求的な学習を効果的に進めていけるような体制作りが求められる。担任を中心とした小論文指導計画の作成に始まり、次に全職員を対象とした小論文の書き方説明会や志望理由書の書き方説明会や探究活動についての教員研修実施などの参加を促し、個人のスキルアップを、そして学校全体のスキルアップを考えていきたい。</p>	<p>今まで図書視聴覚部に学習指導が加わり、仕事の内容は多岐にわたっている。まず、図書部/視聴覚部は来年度1～2名の少人数枠で運営できるように今からそれぞれのスキルアップを図らなければならない。一方、学習研究部では、年間計画を明示し、保護者や生徒が学習の意義を理解し、より高いモチベーションを持って学習に望めるよう工夫していく。特に、小論文・探求的な学習の指導に当たっては国語科の協力を得てしっかりした体制作りが必要となる。視聴覚部では、体育館の放送設備や配線の老朽化が著しいため、根本的な改善が必要である。</p>

<p>保健安全衛生</p>	<p>校舎内外の清掃・美化活動については、外来者から高い評価を得ている。しかし、一部の生徒に生活環境へのマナーを含む美化意識の欠如が見られ、更なる清掃の徹底を指導している。</p> <p>年2回の避難訓練では、全員が災害時に備えて避難経路を確認すると共に、安全の確保の方法を身につける。</p> <p>前年度、教育相談室においてカウンセリングを受けた生徒数は、延べ86名と増加傾向にある。人間関係等で悩みを抱える生徒が最も多かった。コミュニケーション能力に問題が見受けられ、最近では、特に自閉症スペクトラム（ADHD・高機能自閉症等）の疑いのある生徒が増えている。今後、早期発見及び対応が望まれる。</p> <p>また、校内研修（年間1回）、SCによる教育相談部の教員や担任、保護者との面談等を通して生徒の困り事、対処の仕方についてアドバイスを頂くことができた。</p>	<p>学習環境の整備と環境美化意識を高めるために、日々の清掃を徹底する。</p> <p>避難訓練においては、出火元がどこなのかを放送を聞いて確認し、安全にそして迅速に避難する意識を高めさせる指導をする。</p> <p>問題を抱えた生徒の早期発見に心掛ける。</p> <p>個々の生徒や保護者に対して共感的・多面的な理解を図る。また、生徒情報の共有化を重視し、教員間の共通理解を図る。</p>
<p>情報政策管理</p>	<p>成績管理においては、選択科目が多いことから科目担当者と選択生徒の登録に時間を要す。そのため、改善・工夫の余地がある。ホームページやClassiを利用して、学校の取り組みなど必要な情報を伝えていくことができるように、先生方の協力を得ながらおこなっていく必要がある。また、39メールにおいては、全校生徒と保護者に対して登録を強く呼びかけ、情報が届くようにする。きんむくにおいては、働き方改革の観点からシステムが導入された経緯があり、出勤時と退勤時における作業を全職員に遂行してもらえよう呼びかけ等する。</p>	<p>成績処理では、評定や欠課時数など誤りがないように努める。タイムリーな情報発信に努めるとともに、より分かりやすいホームページとなるよう工夫する。Classiを活用し、必要な情報を生徒や保護者に伝えていく。きんむくを活用し、働き方改革を図る。</p>
<p>広報広聴</p>	<p>広報広聴においては、小中学生及び地域住民に対して、本校の教育活動を発信することで、受験生を増やし、地域に理解応援され、その結果本校の教育活動を質量ともに発展させることが目標である。学校公開や学校説明会の行事に加え、広報紙の発行、ホームページの更新や充実など日常的な活動もある。</p> <p>業務の性質上パソコンに習熟している教員に仕事が集中しすぎてしまった。仕事や任務をこなすだけで、創造力を発揮し魅力ある広報活動を行うには時間がなかった。</p>	<p>広報活動には、学校の情報を生徒や保護者など、いわば内部向けと、地域や報道機関など、いわば外部部向けの2つがある。少子化の影響で、生徒数が定員割れする中、特に小・中学校向けの広報活動に力を入れる必要がある。また広報活動を見直し、魅力があり、やりがいのあるものに変えていきたい。</p>
<p>タスクフォース (働き方改革)</p>	<p>令和2年10月に実施した勤務実態調査結果から、教職員の一部に業務が集中し長時間の時間外労働が常態化していることが分かった。(月の時間外労働時間が45時間超の職員数は全体の59.6%(R2:57.4%)、うち月90時間超の職員もいた。働き方改革を推進するために(1)業務改善に係るWG「タスクフォース」の設立。(2)必ずしも教員が担う必要のない業務の削減・外部へ委託。(3)教員が担うべき業務であるが削減・縮小が必要な業務の洗い出し。(4)校務分掌・クラス単位での副部長及び副担任業務の明確化等を実施していく。</p>	<p>業務分担の平準化を目指し、組織及び業務内容の見直しを積極的に行うことを推進していくが、校内の人事配置、行事等における前例踏襲の慣習、一人の教員が数役を担う現実からの打開策の検討に併せ、教職員の意識改革が課題である。</p>

#### 4 中期的目標

1	生徒の自主的活動を支援し、自分たちの学校を自分たちで築いていくという気概を持たせる。
2	学校行事等への積極的な参加を促すとともにキャリアパスポートを活用し、学校生活を豊かに送れるようにする。
3	生徒が意欲を持って学習に取り組めるよう生徒の意識調査等を行い、学習に対する相談や進路相談活動の充実を図る。
4	生徒の体力の向上を図るため、継続的な事業を計画立案し、実施する。
5	国公立大学等への合格者数を増やすため、目的意識を明確にしつつ、学習努力を継続するための支援をする。
6	教員のワークライフバランスの見直しと、働きやすい職場環境の構築を図り、働き方改革を推進する。

#### 5 本年度の重点目標(努力目標)

重点項目	重点目標
<p>学力向上 生徒の学力向上に努める。そのために学習指導の充実を図り、手段としてICT機器の効果的な活用に取り組む。</p>	<p>◇教科指導の充実・学力向上 ア 指導体制の充実と授業時間の確保 イ アクティブ・ラーニングを取り入れた指導方法の改善と工夫 ウ 自学自習と学習活動の習慣化 ◇授業第一主義 ア 予習をして授業に臨み、復習をして学力を身に付けさせる鹿島スタイルの浸透</p>
<p>進路指導の充実 (大学進学支援及び幅広い進路希望支援)</p>	<p>◇進路指導の強化 ア 個人面談等を繰り返し行い、進学目標の早期明確化と、その目標実現に向けた効果的・継続的な取組 ◇就職指導の充実 ア 資格取得の奨励や望ましい職業観・勤労観の育成を推進</p>
<p>基本的な生活習慣の確立 (「み・そ・あ・じ」指導の徹底) 学校として統一的な指導体制を堅持し、家庭や関係機関との連携を組織的に進めながら、自主的・自律的かつ責任ある行動のとれる人間の育成を図る。</p>	<p>◇秩序を重んじ、自ら律する心や他人を思いやる心の育成 ア 人権尊重(偏見・差別をなくす) イ 規律の遵守 ◇健康や安全意識の高揚と、交通安全・防災教育の充実 ア 交通安全教育の充実 イ 防災教育の充実 ウ 性教育(エイズ教育等)の推進 エ 薬物乱用防止教育の推進</p>
<p>特別活動・部活動の振興 (学校生活の充実支援) 特別活動・部活動を積極的に推進し、全人的発達に努める。</p>	<p>◇ホームルーム・生徒会活動の活性化 ◇部活動を奨励し、心身の健康の維持・増進 ア 施設設備の効率的利用 イ 他校・地域の行事やボランティア活動の理解と参加</p>
<p>広報広聴・生徒募集活動の充実</p>	<p>◇本校への理解促進を図るため、情報収集及び情報発信を積極的に行う。 ◇生徒募集活動を工夫し、計画的に及び随時行う。</p>
<p>コンプライアンスの徹底(「たいせつです」運動)及び働き方改革の推進</p>	<p>◇「たいせつです」運動の推進を含め教職員のコンプライアンス意識を高め、服務規程の確保に努めるとともに、教職員の「働き過ぎ」を防ぐなど働き方改革を推進する。 「たいせつです」: 体罰の根絶・飲酒運転の根絶・セクハラ等の根絶・使い込みの根絶・データ漏洩の防止・スピード違反の防止</p>
<p>あいあい 健康 【和気藹々】 報・連・相</p>	